

厚生労働科学研究費補助金（認知症対策総合研究事業）

分担研究報告書

## 問診・観察からの簡便な認知症鑑別診断法の開発に関する研究

研究分担者 山本泰司

神戸大学医学部精神科神経科 講師

### 研究要旨

**研究目的:** 認知症精査のない介護施設入所者の原因疾患を、比較的簡便な問診や観察で同定する方法の開発を検討する。

**研究方法:** 物忘れスピード問診票を実際に介護施設などで実施し、そこから得られた鑑別結果と、通常行っている認知症ルーチン検査（認知症専門外来で施行するレベル）で得られた結果とを照合して統計解析を行う。

**結果:** 現在、少人数に対してパイロット的な施行段階であるため、今後は2014年度前半から複数の施設で被験者を募って研究を開始予定である。

**まとめ:** パイロット的な段階であるが、物忘れスピード問診票による鑑別診断と通常の認知症ルーチン検査で得られた結果にはある程度の一致率が認められている。今後、対象となる被験者を複数施設で募るために、倫理申請の準備を進めているところである。

### 研究協力者氏名・所属施設名及び職名

川又 敏男 神戸大学保健学科 教授

阪井 一雄 宝塚医療大学 教授

数井 裕光 大阪大学 精神医学 講師

松山 賢一 神戸大学 精神科 医員・大学院生

## A. 研究目的

認知症患者全体のうち、十分な精査鑑別がなされずに介護施設に入所する者も多い。そこで、研究班の主な課題である BPSD に対して、その予防法の開発にあたり、介護施設に勤務するコメディカルによる問診や観察によって簡便に認知症の原因疾患をある程度の精度で同定（鑑別）できるような方法の開発が重要である。

## B. 研究方法

物忘れスピード問診票（唐澤秀治氏らの開発、2013）を、神戸大学医学部附属病院精神科認知症専門外来ほか、関連の協力施設（複数の老健、特養など）において被験者を募って実施し（研究対象被験者総数は計 150 例を目標、可能であれば更に人数を増やすことも検討）、当該問診票および観察から得られた鑑別結果と、通常の認知症ルーチン検査で得られた結果とを照合して統計解析する。

### （倫理面への配慮）

本研究では、被験者の情報は匿名化（番号化するなど）した状態でデータ解析を行うことにするため、いずれの患者のデータであるかを特定される危険性はないものである。

## C. 研究結果

現在、研究分担者の勤務する施設において、2014 年春の倫理申請に向けて準備を進めている段階である。が、物忘れスピード問診票の開発者らの報告（2012 年に認知症学会における発表のみ、文献なし）によると、およそ 70% の正診率であったと報告されている。

## D. 考察

今回、本研究で用いる物忘れスピード問診票に関して、開発者らの報告（2012 年に認知症学会における発表のみ、文献なし）によると、およそ 70% の正診率であったとされている。

物忘れスピード問診票が認知症の原因疾患を鑑別できるツールとして立証できれば、介護施設等でコメディカルが簡便に施行できることから、認知症の早期発見・早期治療につながる。

現在のところ、開発者を含めて、この点に関して詳細に検証した調査研究はないため、本研究において実証できるかが重要である。

## E. 結論

本年度はパイロット的な段階にとどまっているが、物忘れスピード問診票による鑑別診断と通常の認知症ルーチン検査で得られた結果にはある程度の一致率が認められている。

上記のとおり、今後は次年度に被験者数を拡大して検討するため、対象となる被験者を複数施設で募る予定であり、そのための倫理申請の準備を進めているところである。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

阪井一雄、山根有美子、山本泰司、前田潔．レビー小体型認知症における抑うつ（特集 認知症（AD、DLB）およびパーキンソン病における認知障害と抑うつ症状）Depression in Dementia with Lewy Bodies．精神神経学雑誌、115(11)、pp1127-1134、2013．

## **2. 学会発表**

阪井一雄、山根有美子、山本泰司、前田潔.

DLB の抑うつ.第 109 回日本精神神経学会学術  
総会シンポジウム 13 認知症 (AD, DLB) および  
パーキンソン病における認知障害と抑うつ症状  
2013.5.23.

## **H. 知的財産権の出願・登録状況**

### **1. 特許取得**

なし

### **2. 実用新案登録**

なし

### **3. その他**

なし